横浜市小学校社会科研究会

学年部会

研修会記録

第　７　号

令和６年　1月　10日
横浜市小学校教育研究会
会長　濵田　哲也
横浜市小学校社会科研究会
会長　加藤　和之
同　学年部長　宮原　美由紀

【提案日時】
１２月　６日（水）

【会　場】
大綱小学校

提案　志村　竜乃介先生（大綱小）
司会　呉屋　雄紀　先生（師岡小）
記録　杉内　翔太　先生（川和小）

【一斉授業研】

単元名「くらしと産業を変える情報通信技術～私たちの健康を支える情報通信技術～」

【提案者より】　自評

子どもたちの生活経験から病院に対する不満として、待ち時間が長いことが出てきた。そこでそれを解消するための手立てとして「サルビアねっと」と出会い、システムや内容医療側の立場として考えてきた。

本時の中では、「利用価値にずれていった場面について」「抽出児の学習の様子について」「本時ではあえて出さなかった利用施設の広がりを表す資料の是非について」意見を聞きたい。

【研究協議より】

視点①　子どもが問いや見通しをもち、主体的に学ぶ単元づくり

◎志村先生の取材努力や利用者の声により、材との距離が近くなっていたように感じた。→子どもの利用者がいると○
利用者とつながれなかった場合は、大綱小の職員に利用者がいたため、そこから展開することもできた。

◎資料も子どもたちが立ち返れるものであり、「共有」というキーワードに気付く姿が見られた。

△頑張っている子どもたちが多かった分、早い段階で大多数が本時目標にたどり着いていたのではないか。
→つぶやきやふりかえりの中では出ていたが、「今後入るのか。」まで考えられると深まりがあったのでは？

視点②　個を生かし、協働的に学びを深める授業づくり

◎抽出児Ⅱの変容は、授業記録や授業態度からも前向きになっていることが感じられた。

△誰一人取り残さないためには、グループでの活動を入れたり、前時までにまとめる時間があったりするとよいのでは。
→ゴールにたどり着くために、「こんなにいいのに、なんで入らないの？」「自分なら～と判断する」「昔との比較」など

【講師の先生より】

瀬谷さくら小学校　場家 誠 校長先生

・歴史ある市社研で授業研が続いてきた価値（人の授業を見て学ぶこと）を、改めて感じることができた。
・授業記録の中にはない、「ちょっとわからないんだけど」や「前に戻るけど」から学びの様子を感じられる。
・自評で聞いた先生の満足度は、子どもたちに聞いてもよい。その子どもにしかわからない価値だからこそ。
・安心や不安の安売りは、危険。「Kさんの安心」に引っ張られていたのではないか。
→事実を見ていけるとよい。出さなかった地図を出せるような展開を目指していけるとよかった。
・材は、だんだんと身近になっていけばいい。そこから「～しないといけない」に変容していけるとよい。

玉川大学大学院 教育学研究科 教授　梅田 比奈子 先生

・終わった後に見返して、大切なことが分かる美しい板書だった。ICTだと残らない。だからこその、黒板の意味がある。
・この材でいくのであれば、おじいちゃんやおばあちゃんにインタビューさせると、より身近になっていったのではないか。
・T病院から始まった「サルビアねっと」を数字で見ていくと、見えないものが見えてくる。（R病院は360万払って導入）
・どう発展していくのか、国民生活の向上に影響しているのか、教材として見ていくことができる必要がある。
→川崎のT病院：院内の情報共有、LINEのコンシェルジェ ビックデータの活用：新薬の開発、手術方法 など

文責　杉内　翔太（川和小）

【提案日時】 １２月６日（水）	提案　名畑　慧大　先生（原小）
【会　場】 原小学校	司会　益満　順也　先生（羽沢小） 記録　田中　晃祐　先生（あざみ野第二小）

【一斉授業研究会】

単元名 「食料品をつくる工業～地域とともに成長するM社の取り組み～」

【自評】

ポン酢を大量生産していることから、社会問題につなげる。

しゃぶしゃぶマップはウェブページから引用したが、より良い提示方法はあったか？

【グループ討議】

〇資料について

提示量が多かった。子供は意図を分かっていた？社会や生活に合った資料なのか。しゃぶしゃぶマップを工夫（だしに着目させたり）して、工業の工夫が分かるようにする。資料と疑問をセットに考えるようにする。発問に資料を見る視点が入っているとよりよい。

〇成果

抽出児の見取りが細かくしてあった。また。ICTの活用。つぶやきをひろう姿などがすごかった。

【指導講評】

〇五十嵐先生

子どもの主体性発揮できた？事実に基づいて課題を立て、事実に基づいて解決。子供たちの納得解を求める。先生の正解を求めていた。授業と授業の間で子どもが育つ。座席表からより進化できるように

〇寺岡先生

子ども体がポン酢に興味を持っていた。良い学級経営。子ども体の中ですでに答えが分っていた課題。先生の意図と児童の意図の差がある。子供たちの思考に沿って。流れの確認。―短時間でできるとより良い。

ロイロノート 流れが分って良いが、考える場面、思考の場面ではノートの方が良いかと

資料　ウェブから直接見せるのは難しい。加工の必要がある。ロイロを送るが、しっかり見ている？子供に沿ってプランを考えていく、流れを変える資料が欲しい。

例えば、、、アンケートに絞ってやるといい。きっと子供たちは健康やニーズにこたえていることに気付ける。そこをどう先生が引き出していくか。

〇森先生

素直でかわいい、先生に認めてほしい。

工業で食品工業→事実が見えづらい・子供との近さ。指導要領の目標とあっている？→我が国の工業とあっている。一般化できる？

学び 具体を抽象化、概念化できるか。→違う具体に繋げられるように。

資料→企業理念に繋げる。何をさせたい？より絞れるように

日本地図→北海道・沖縄・関東にしぼっていく

「社会の変化に対応」するとは、、、子ども達に何を話す、、、具体はじっくり。資料の説明はしない。子供たちが考えるようにする。WEBカードは難しい。

文責 田中 晃祐（あざみ野第二小）

発　杉内　翔太（川和小）